

■9月のおすすめ本

暑い日が続いています。涼しいところで読書をしながら熱中症対策をしてみてもいかがでしょうか。

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	同姓同名		
	江戸川乱歩	P311	文庫
	創元推理文庫	1987年	
	純日本的な家屋における密室状況下の殺人事件を、心理的盲点を衝いて見事に解決してみせるのが、後に日本を代表する名探偵といわれるようになる明智小五郎である。本書には「D坂の殺人事件」に加え、「赤い部屋」「白昼夢」「毒草」などを収録。ミステリー好きにはぜひ読んでほしい一作。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	桜のような僕の恋人		
	宇山佳佑	P335	文庫
	集英社	2017年	
	美容師の美咲に恋をした晴人。彼女に認めてもらいたい一心で、一度はあきらめたカメラマンの道を再び目指すことに。そんな晴人に美咲も惹かれ、やがて二人は恋人同士になる。しかし、幸せな時間は長くは続かなかった。美咲は、人の何十倍もの速さで老いる難病を発症してしまったのだった。老婆になっていく姿を見せたくないと思ふ美咲は……。桜のように儚く美しい恋の物語。最後には声を出して泣くほど感動する作品です。恋愛小説でもイチオシの作品です。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	精霊の守り人		
	上橋菜穂子	P360	文庫
	新潮文庫	2007年	
	老練な女用心棒バルサは新ヨゴ皇国の二ノ妃から皇子チャグムを託される。精霊の卵を宿したチャグムに訪れるさまざまな苦難に対しバルサは身体を張って戦い続ける。数多くの受賞歴を誇るロングセラーがついに文庫化。続編も面白いのでぜひ読んでほしい一作です。		

*購入予定です	(図書委員のおすすめ)		
	ようこそ実力至上主義の教室へ		
	衣笠彰梧	P320	文庫
	KADOKAWA	2015年	
	希望する進学、就職先にほぼ100%応えるという全国屈指の名門校・高度育成高等学校。最新設備の使用はもちろん、毎月10万円の金銭に値するポイントが支給され、髪型や私物の持ち込みも自由。まさに楽園のような学校。だがその正体は優秀な者だけが好待遇を受けられる実力至上主義の学校だった。ある理由から入試で手を抜いた結果、主人公・綾小路清隆は、不良品が集まる場所と揶揄される最底辺のDクラスに配属されてしまう。		

*図書室にあります	(図書委員のおすすめ)		
	この恋は世界で一番美しい雨		
	宇山 佳佑	P367	文庫
	集英社	2021年	
	「普通とは何か」「正しさとは何か」を駆け出しの建築家・誠と、カフェで働く日菜。雨がきっかけで恋に落ちた二人は、鎌倉の海辺の街で愛にあふれた同棲生活を送っている。家族のいない日菜に「夢の家」を建ててあげたい、そのために建築家として名を上げたいと願う誠だったが、ある雨の日、日菜と一緒にバイク事故で瀕死の重傷を負ってしまう。目を覚ました彼らの前に、“案内人”と名乗る喪服姿の男女が現れる。そして誠と日菜は、二人合わせて二十年の余命を授かり、生き返ることに。		

*図書室にあります	先生方のオススメ		*図書室にあります
長谷川直哉先生のオススメ		石神知奈先生のオススメ	
世界的にはフロイト、ユングと並ぶ心理学界の三大巨匠とされながら、日本国内では無名に近い存在のアルフレッド・アドラー。「トラウマ」の存在を否定したうえで、「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」と断言し、対人関係を改善していくための具体的な方策を提示していくアドラー心理学は、現代の日本にこそ必要な思想だと思われます。本書では平易かつドラマチックにアドラーの教えを伝えるため、哲学者と青年の対話篇形式によってその思想を解き明かしていきます。		人種も貧富の差もごちゃまぜの元底辺中学校に通い始めたぼく。人種差別丸出しの移民の子、アフリカからきたばかりの少女やジェンダーに悩むサッカー小僧……。まるで世界の縮図のようなこの学校では、いろいろあって当たり前、でも、みんなぼくの大切な友だちなんだ——。優等生のぼくとパンクな母ちゃんは、ともに考え、ともに悩み、毎日を乗り越えていく。最後はホロリと涙のこぼれる感動のリアルストーリー。	
	嫌われる勇気		僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー
	古賀史健 岸見一郎		ブレイディみかこ
	ダイヤモンド社		新潮社
	2013年		2021年
	294ページ		256ページ